

令和3年9月30日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）スペシャルサポートルームの推進について

熊野中学校では、「れんげルーム」と呼ばれるSSRを設置しており、現在、学校へ登校することができなかった生徒20名が学んでいて、中には、小学生の時には全く学校に行けていなかったが、この教室が設置され通えるようになった子供もいる。

熊野中学校に限らず、SSRを設置した学校は不登校の改善に成果が出ていると聞いている。現場でのニーズとこれまでの成果を踏まえ、この取組を全ての学校に設置するなど、全県に広げていってはどうか、また、SSRの取組を充実したものとするために、専門の常勤教諭の確保と生徒が登校しやすい環境の整備が必要と考えるが、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

文部科学省が実施している調査によりますと、県内の小・中・高等学校における不登校児童生徒は、平成27年度から令和元年度にかけて約1.4倍に増加しており、県教育委員会といたしましても、重要な課題の一つであると捉えております。

こうした状況を踏まえ、本県では、令和元年度から、不登校の未然防止と不登校等児童生徒の社会的自立に向け、市町教育委員会がスペシャルサポートルームを設置した小・中学校のうち、11校を指定校とするとともに、担当教員を加配するなどの支援を行ってきたところでございます。

令和2年度末には、指定校11校中6校において、前年度より不登校児童生徒数が減少するとともに、スペシャルサポートルームを利用した児童生徒から、例えば、

- ・ 少人数で安心できる場所があると学校に来ることができる、
- ・ 教室がしんどくなった時、家に帰るのではなく、スペシャルサポートルームに行くという選択肢が増えた

などの声を聞くことができました。

今年度は、指定校を県内21校に拡大し、事務局内に新しく設置した不登校支援センターの指導主事が、毎週訪問し、不登校等児童生徒への支援の強化・充実を図っているところでございます。

今後、学校や市町教育委員会の人的措置に係る要望等を踏まえ、担当教員

の加配措置について、引き続き、国に要望してまいります。

一方で、高い専門性をもつ人材が不足している状況もあるため、県の指導主事が、担当教員とともに児童生徒とかかわる場面において、担当教員の専門性の向上を図ってまいります。

さらに、指定校の取組事例を、教職員を対象とした研修等において紹介する中で、例えば、児童生徒の社会的な自立を目指すこと、また、その際、児童生徒の状況に応じたきめ細かい支援が必要であるといった、不登校等児童生徒への支援の在り方や考え方を県全体へ普及し、各学校における取組が充実していくよう支援してまいります。